成長市場に飛び込む
アジアに近づく九州

九州とアジアの関係は深い。日本の中でも地理的に近く、伝統的に文化面や経済面で交流を行ってきた背景がある。さらに近年のグローバル化と国内市場の縮小を受け、業容拡大に直結する期待が大きいアジアに対して、企業が送る視線は熱い。成長めざましいアジア市場から活気を取り込むことは、企業が本社を置く日本国内の元気にもつながる。九州とアジアの経済的なつながりを見ていく。

強い結びつき続く

進出先、中国ほか多様化へ

九州経済産業局がまとめている「九州経済国際化データ」には2000年分から、経済活動全体に占める対アジア比率を示す「アジア度」が載っている。14年に公表した13年分のデータでは、九州のアジア度は全6項目中で「輸入額」を除く5項目が全国の数値を上回る。それだけ九州とアジアの結びつきの強さがわかる。

九州の最大の貿易相手国は中国で、これに韓国、米国が続く（貿易総額ベース）。九州から世界への13年輸出総額は5兆62003億円。中国向けは有機化合物や自動車が好調で、韓国向けは半導体など電子部品が好調。一方の同輸入総額は6兆6154億円で輸入超過だった。

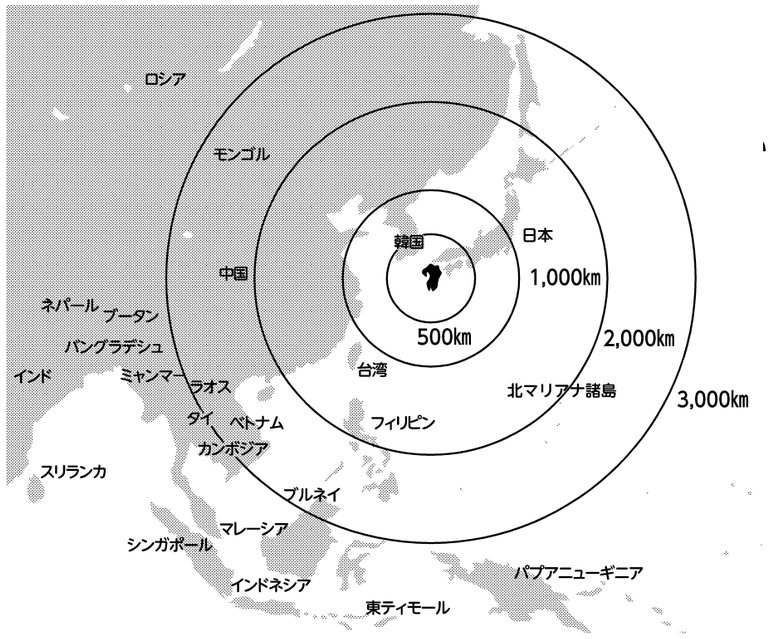
特に「半導体等電子部品」の輸入額は、2066億円で前年比26・9％の増加。中でも太陽光発電モジュールなど「光電池」の輸入額は、太陽光発電ブームを受けて1218億円。12年の282億円から大きく伸びた。光電池の輸入相手国・地域は中国52・1％、韓国16・8％、台湾10・1％。

貿易の数字を見ても、九州とアジアの関係は深いのは中国とベトナムだ。最近のアジアへの企業展開について、山内久幹国際コンサル室長は「多様化がキーワード」と説明する。企業規模と業種に加えて進出先が多様化。ラオスやカンボジア、ミャンマーといった国々に展開先が広がっている。

「チャイナ・プラスワン」で中国以外の東南アジア諸国連合（ASEAN）地域で展開を目指す企業は増えている。だが「中国の人件費が高騰していると言われているが、給与以外では特筆すべきほどではない」（山内室長）など、九州の製造業に限れば「検討はするが、実際には進出しないケースが多い」（同）という。業種にもよるが中国の優位性はまだ高く、最終的に中国の別地域に進出することが目立つという。だが、ラーメンはじめ外食やサービス業では、ASEAN地域への進出は顕著だ。

海外展開のノウハウが少ない中小企業で課題なのが、管理体制に関する分野。進出時から変更になった現地の法律への対応などがニーズとして高まっている。同社は西日本シティ銀行グループで、銀行国際部の知見をつうという。だが、ラーメン体では難しい実践的な情報提供や支援を強みとする。海外ビジネス支援に特化した「国際コンサル室」を設けてこの3月で丸3年が経過。「正しい情報をワンストップで提供する。リスクもはっきり伝えて、認識を持ってもらう。その上で最後は経営者の判断になる」と野崎昭一常務は強調する。

九州グローバル人材協議会による研修



高度人材を活力に

留学生支援、海外で育成

人材は企業活動に不可欠な要素だ。さらに事業の拡大においては、優秀な人材が成否を左右することも多い。一方で日本は少子化の影響で、採用環境は決して楽観視できない。その一つの解決策として注目されているのが外国人材の活用だ。

九州に留学する外国人留学生は、日本学生支援機構の調査では約2万2200人（13年5月現在。沖縄を含む）。全国に占める割合は13・2％で、関東と近畿に次いで多い。出身地域はアジアが約1万6800人と大半で、留学先の県別は福岡が約1万3700人、大分約3400人、長崎約1400と続く。

一方で九州に就職した留学生は607人（13年度、法務省入国管理局）と見られ、全国の就職者数における構成比は5％程度。大都市圏で大企業などに就職するケースが多く、人材が他地域に流出している状況だ。

多くの留学生が日本に就職希望とされる中、九州での留学生の就職者が少ない背景について「企業情報と人材情報が、企業と留学生のお互いに届いていない」と九州グローバル産業人材協議会（福岡市早良区）の高録秀敏事務局長は指摘する。

そのほかにも、企業が海外展開する中で留学生採用の難しさを知らずに立地を進め、実際に採用する段階になって確保できずに困ることがあるという。また留学生を採用したい経営者の考えに、現場がついてきていない事例もある。留学生側でも、日本の就職活動スケジュールを知らず、機会を失うことも多い。

これらの課題に対応する目的で、同協議会は11年に発足。地場の経済界や教育機関などが連携して、留学生の九州での〝引き留め〟に動いている。留学生向けセミナーや企業への情報提供、就職後の定着支援などを実施してきた。協議会のイベントや研修会に参加した留学生のうち、13年度は130人、14年度は210人（15年1月末時点）が内定を獲得するなど効果を上げている。

同協議会では13―14年に「ソリューション型インターンシップ」を実施した。企業の課題に対する解決策を調査・立案する中で、日本で仕事をすることのモチベーションや経験を養った。14年には大分と長崎で開催。中国、韓国、ベトナム、フィリピンの合計17人（日本人学生1人を含む）の留学生が参加。多国籍のチームに分かれて、観光をテーマに1カ月半をかけて取り組んだ。最終的に公開の場で発表し、参加学生と協力企業両者に有意義な取り組みとなったという。

一方で留学生ではなく。海外で日本の製造業向け人材を育成し、日本で就業させているのがテクノスマイル（福岡県宮若市）だ。14年にタイで日本語を話せるエンジニア養成を開始。これまで中国、ベトナムで実績を積んでおり、タイは3カ国目。今後、ミャンマーでも育成を視野に入れている。

現地の理工系大学や総合大学と提携し、日本人教師が学生にビジネスマナーや日本語を指導する。卒業後はテクノスマイル所属の派遣社員として就業し、日本企業で働く。派遣先は正社員として採用もできる。

企業側の人材ニーズと「将来は母国に帰りたい」といった学生のニーズをすり合わせてマッチングする。「背広でいえばオーダーメード。手作りの人材派遣で、はずれはない」と馬見塚譲社長は胸を張る。日本国内の人材不足に対応する高度人材や、ASEAN地域に進出する企業が必要とする基幹人材候補、英語を含め3カ国語を操るグローバル人材に育てている。

テクノスマイルによるタイでの日本語授業

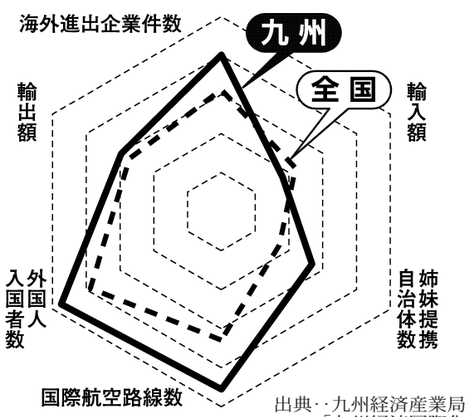
高い「アジア度」

「海外進出」では8割

九州経済産業局がまとめている「アジア度」は「海外進出企業件数」「輸入額」「輸出額」「姉妹提携自治体数」「国際航空路線数」「外国人入国者数」の6項目で比較している。03年までは全6項目で九州の「アジア度」が全国を上回っていた。だが04年に輸入額の項目で九州41.8％に対し、全国45.2％となり逆転。以来、同項目のみ全国が上回る状況が続いている。

九州と全国のアジア度比較

項目	単位	九州（2013年） アジア	九州（2013年） 世界	九州（2013年） アジア度	全国（2013年） アジア	全国（2013年） 世界	全国（2013年） アジア度
海外進出企業件数	件	850	1,054	80.6%	16,214	26,060	62.2%
輸入額	億円	23,806	66,154	36.0%	359,715	812,425	44.3%
姉妹提携自治体数	件	97	181	53.6%	573	1,661	34.5%
国際航空路線数	路線	29	32	90.6%	196	296	66.2%
外国人入国者数	人	1,156,446	1,216,268	95.1%	8,882,100	11,255,221	78.9%
輸出額	億円	33,272	56,203	59.2%	378,666	697,742	54.3%



出典‥九州経済産業局「九州経済国際化データ2014」

無断転載・複写禁止ⓒ㈱日刊工業新聞社